

## 復活節第六主日

2016.5.1

ヨハネ 14・23-29

復活祭の喜びを祝って来た復活節も今日はその第六主日、来週は主の昇天の祭日を迎えようとしています。

この復活節の間、わたしたちはヨハネ福音書に記されている、イエスが地上のご生涯の最後に弟子たちに残されたことばをあらためて味わってきました。復活節の主日ごとにわたしたちが聴いてきた福音は、十字架の死を前にしたイエスが弟子たちに残された遺言のように響いていました。けれども、十字架の受難の死を前にして、イエスが弟子たちに語られたこれらのことばは、十字架の上に死んで行かれたイエスが残された遺言にとどまるものではありません。わたしたちはイエスの復活を祝う復活節の主日のミサの中で、これらのイエスのことばをわたしたちに向けて語られている福音として聴いてきたのです。

ヨハネ福音書に語られているあの別れの時、イエスは弟子たちの上にこれから起こることを、前もって語り聞かせておられたのです。今日の福音の最後に、「事が起こったときに、あなたがたが信じるように、今、その事の起こる前に話しおく」とイエスは言われています。「事が起こったとき」の「事」とは、イエスの十字架の死と復活という出来事を意味していることを、ヨハネ福音書を最後まで読み通すとき、わたしたちは知ることが出来ます。

それらの事が起こったときに、それはイエスが前もって告げておられたことであつたと、弟子たちが信じ、受け止めることが出来るように、イエスはあの最後の別れに当たってのことばを残されたヨハネ福音書は記しているのです。そのように理解するなら、「わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る」とあの時イエスが言われたのは、ご自分の十字架の死と復活を告げておられたのだということが分かります。そして、「わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くことを喜んでくれるはずだ」というおことばは、死者の中から復活されたイエスが御父のもとに行かれること、つまり来週、わたしたちが祝う、復活されたイエスの昇天を告げていると理解することが出来ます。

このように見てくると、洗礼を受けてイエス・キリストを信じる者とされたわたしたちは、十字架の死を前にしたあの時、イエスが語られることを理解できずにいた弟子たちと同じ時の中にいるのではないことが分かります。わたしたちは、イエスが告げておられたように、復活されたイエスの出会い、聖霊の

降臨を受けて弟子たちが始めて理解することが出来た同じことを、わたしたちが受け入れた教会の信仰によって知っているのです。そしてわたしたちが受け入れたその教会の信仰は、「弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」とイエスが告げておられたとおりに、聖霊の降臨を体験することによって、弟子たちが悟ることの出来た、イエスのあの最後のおことばに基づいているのです。

そのようなイエスのおことばとして、今日の福音にあらためて耳を傾けたいと思います。「わたしを愛する人はわたしのことばを守る」とイエスは言われます。イエスが「わたしを愛する人は、わたしのことばを守る」と言われた時、イエスはどのおことばを指して、「わたしのことば」と言われたのでしょうか。少し前の箇所です。「あなたがたはわたしを愛しているならば、わたしの掟を守る」と言われているので、わたしのことばを守るというおことばは、イエスが与えられた新しい掟、「互いに愛し合いなさい」という掟を指しているとも受け止めることが出来ます。けれども、「わたしを愛する人は、わたしのことばを守る」とイエスが言われるとき、ことばを守るという言い方には、掟を守るというときよりも、もっと広い広がりを感じ取ることも出来ます。

今月は聖母月でもあるので、マリアさまのことを思いおこすと、マリアさまは天使のお告げを通して受けたことばを心に納め、思い巡らしていたと言われています。そのようにしてマリアさまは、人となってこの世に来られた神のことばそのものであるイエスをご自分の中に迎え入れられたのです。愛情をこめて、神が与えてくださったかけがえのない宝として、ご自分の子となられたイエスの成長を見守り続けたのです。そのようにして、マリアさまは神のみことばとともに生きられたのです。「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方はなんと幸いです。」といエリザベトのマリアさまへの賛辞は、マリアさまの全てを言い表しています。

弟子たちもまた、復活されたイエスが彼らの中に来てくださり、聖霊の息吹を吹きかけてくださった時、十字架の受難を前にしてイエスが語り聞かせてくださったことばの全てが実現したことを悟ったのです。

「わたしを愛する人は、わたしのことばを守る」と言われるとき、イエスが語られた一つ一つのことばを、大切に忘れないように、わたしたちの心の中に留め、守るということ以上のことをイエスは言っておられるのです。今日の福音の中でイエスが「わたしのことば」と言われる「ことば」はイエスが語られ

た複数のことばとしてではなく、ただ一つのことばとして表現されています。そのことにこだわるなら、「わたしのことばを守る」とは、マリアさまがそうされたように 神のことばとしてこの世の来られたイエスの全てを受け入れることであると言えます。そのように受け止めて、あらためてヨハネ福音書の最初に語られていたことを思い巡らしてみると良いかもしれません。そこでは、はじめに神とともにあった、神そのものであることばは、世に来て世の闇を照らす光であり、いのちのことばであると言われていています。さらに、「ことばは自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は神によって生まれた」と言われています。ここに語られていることは、わたしたちがイエスのみ名を信じて洗礼を受けたことによって、いただいている恵みそのものです。弟子たちの上に注がれ、弟子たちの心を開いて、イエスが語られたことをすべて理解させてくださった聖霊、今も教会の中で働いておられる聖霊は、わたしたち一人ひとりの心をも開いて、わたしたちが神の子とされるこの恵みを与えてくださったのです。

「わたしを愛する人は、わたしのことばを守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしはその人のところに行き、一緒に住む」という、今日の福音のイエスのおことばは、最初聞いたときには、すぐに理解することが難しいかもしれません。けれども、今日の福音のイエスのこのおことばは、わたしたちが洗礼によっていただいた、神の子とされた者たちのいのちの恵みを告げているのです。

このようにして、今日の福音のイエスのおことばは、わたしたちの上にも実現しているのです。マリアさまがそうされたように、わたしたちが知った、必ず実現する主のことばをわたしたちのうちに保ち続ける恵みを願いたいと思います。そこにこそ、「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方はなんと幸いです。」マリアさまが味わった信じる者の幸いがあるのです。

わたしたちが、神のことばとしてのイエスがわたしたちに与えてくださったこの恵みをわたしたちの心に保ち続け、守り通すことが出来るとき、わたしたちはイエスが約束された平和を味わうことが出来ます。

今日の福音の中でイエスは「わたしはあなたがたに平和を残し、わたしの平和を与える」と言われています。イエスが与える平和は、「あなたがたに平和」と弟子たちに言われた、十字架の死を越えて復活された主イエス・キリストが与えてくださる平和です。どのような状況に置かれても、わたしたちの中にもともに住み、ともにいてくださる、父なる神とその父を指し示す、神のことばとしてのイエスによってわたしたちにもたらされる平和です。イエスが約束してくださるこの平和を生きるために、わたしたちに与えられた神のことばとしてのイエスを、そのイエスがわたしたちにもたらす神の恵みを、マリアさまがそ

うされたようにわたしたちの中に大切に大切に守り育てて行きたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高